

日本ケアマネジメント学会第14回研究大会報告書

平成27年9月30日 大会長 服部万里子

6月13日9:00～開会式 来賓3名を迎え、理事長白澤政和より挨拶



(写真は開会式で挨拶する白澤政和理事長と右が来賓の皆様)

白澤理事長は「地域包括ケアを進めていくべき重要な時点にあり、この大会は今後のケアマネジメントの方向を示す大変重要な大会である」と述べた。続いて、神奈川県保健福祉局長・中島正信氏、横浜市保健福祉局長・鯉淵信也氏、一般社団法人日本介護支援専門員協会会長・鷺見よしみ氏から祝辞を頂いた。

6月13日13:10～大会長講演「医療・介護保険制度改正下におけるケアマネジメントの価値と役割」服部万里子



(写真は大会長講演をする服部万里子日本ケアマネジメント学会副会長)

服部万里子大会長は「ケアマネジメントが利用者・介護者と向き合い、介護サービスのマネジメントをする時代は終わった。地域や施設や暮らしの場で、利用者に向き合い、医療・看護・介護・生活のQOLなどトータルな支援を行う、新たなケアマネジメントの価

値を創造しよう」と呼びかけた。

6月13日13:45～特別講演「認知症とともに生きるコミュニティ・ケアマネジメント」



石渡和実・日本ケアマネジメント学会理事の司会で、愛甲健氏・厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐が講演し、この間の厚生労働省の認知症に対する取り組み報告し「認知症高齢者にやさしい地域作りに向けて、民間セクターや地域住民など、様々な主体がそれぞれの役割を果たしていくことが求められる」と講演された。続いて小島美里氏（特定非営利活動法人暮らしネット・えん代表理事）は、地域における NPO の実践活動の中からケアマネジメントに『つなげること』の役割の大切さを述べられた。伊東美緒氏（東京都健康長寿医療センター研究所研究員）は認知症の BPSD を理解し回避する「不同意メッセージ」と認知症の人に向き合うユマニチュードを紹介された。

6月14日13:15～市民公開講座「在宅で最後までどう生きるか」（共催 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団）



落久保裕之・日本ケアマネジメント学会理事の司会で、高橋謙司氏・厚生労働省老健局振興課長が基調講演を「介護保険法改正と地域包括ケア」のテーマで行った。介護保険法改正と地域包括ケア、ケアマネジメントの見直し、平成27年度の報酬改定や地域同行研修などを提案された。続くシンポジウムでは在宅医療視点から城谷典保氏（医療法人社団鴻鵠会理事長）が地域包括ケアシステムの中で多職種連携における ICT の果たす役割が極めて重要と実践例を紹介された。次に田中道子氏（あすか山訪問看護ステーション所長）は「訪問看護師は健康の維持・回復、生活や穏やかな人生の最終段階を支える視点を持つ専門職として、訪問看護ステーションのみならず、病院、診療所からの訪問看護も含めた

訪問看護師の質の向上に向けた、地域の訪問看護師が一体となった取り組みが必要」と述べられた。伊庭裕美氏（あいケアマネジメントサービス管理者）は「病院や施設での安心と住み慣れた自宅で住み続けることの自由を同時に手に入れるために、どれほどさまざまな支援が必要か」と述べられた。内田千恵子氏（日本介護福祉士会副会長）は、「在宅生活を出来る限り長く続けられるようにするのが、介護関係者の仕事である。地域包括ケアはまさに利用者の願いをかなえる仕組みであるが、システムを動かす具体的な方法が確立したとはいえない。」と問題を提起された。最後に登壇した浅川澄一氏（ジャーナリスト・元日本経済新聞社編集委員）はご自身のガン手術と抗がん剤の治療を話し、「医療や介護の世界は、専門家への『お任せ』でなく、当事者の『選択』の時代に入ったが、救急車の手助けや延命治療などまだまだ「お任せ型」の考えが根強い」と当事者の思いを語られた。

6月13日9：30～老年学会合同シンポジウム「終末期における多職種連携」



(写真は老年学会の各学会から推薦されたシンポジストの皆様)

前沢政次（日本ケアマネジメント学会理事）の司会で白澤政和（日本ケアマネジメント学会理事長）が基調講演を行い、多くの関係者が連携しながら終末期ケアを受ける高齢者を支えていくためのケアマネジャーの役割に関して述べた。石垣泰則氏（城西神経内科クリニック院長）は医師の立場から終末期医療の多職種連携の実際を報告され、岩佐康行氏（原土井病院歯科部長）は「終末期においては、少量でも経口摂取が可能な者には食支援を続け、経口摂取できない者には口腔内の環境を良好に保つように支援することも重要である。歯科はそのような役割を担う」と述べられた。川上嘉明氏（東京有明医療大学看護学部看護学科准教授）は「医師とともに看護・介護等のケアの専門職の見立てにより、近い将来の死が不可避であると考えられる事実が家族を含め看取りに関わるメンバーに共有され、それぞれ

のメンバーがより良い看取りを思考するうちに、合意とその重責を負う覚悟が醸成されていくこと」をのべられた。最後に島田千穂氏（東京都健康長寿医療センター研究所研究員）は終末期医療の多職種連携の中心に、「本人」の希望を据えるための支援について述べられた。その後会場との質疑が行われた。

9月14日9：45～老年学会合同シンポジウム「高齢者向け住宅と医療ニーズの高い高齢者のコミュニティケア」は佐藤美穂子氏（日本ケアマネジメント学会理事）が司会し、竹内孝仁氏（日本ケアマネジメント学会副理事長）による基調講演では「各種高齢者住宅がもつ職員・職種構成の中で①疾病等の発見能力（発見体制）②医療資源のアクセス・連携の実態③日常生活の中でのケア能力」に関して話された。大蔵暢氏（トラストクリニック等々力院長）は、高齢者施設ならではの医療やケアの特徴を紹介された。松本佐知子氏（老人看護専門看護師）は、「日頃から入居者が抱えている健康リスクや終末期医療についての希望等をともに考え、家族や職員らで共有し、最良の医療の提供につなげる」ことに関して話された。

西元幸雄氏（社会福祉法人青山里会常務理事）は「医療ニーズの高い高齢者が住み慣れた地域や自らの思いに沿った住居での生活の支援は医療的ケアにおいて病気を治すことと、健康の維持向上を含めた「生活の支援」等による利用者の人格の尊厳が重要」と述べられた。

14回大会は老年学会合同シンポジウムは全部で10ヶあり、日本ケアマネジメント学会は2つを担当した。他の学会の参加や質疑もあり他職種との交流が広がった。

研究発表は13～14日に口頭発表は9つのセッションで91題、が行われた。



（写真は口頭発表の様子）

ポスター発表は6月12日に老年学会合同のポスター発表3題、14日会場を別にした28題の発表が行われた。



(写真はポスター発表の様子)

モーニングセミナーは14日8:00~3会場で3種開催

- ① 「認知症ケア最前線」 福富昌城氏（日本ケアマネジメント学会理事）司会で遠藤英俊氏（国立長寿医療研究センター・研修センター長）による講義
- ② ㈱テクノスジャパン様「在宅高齢者を見守るケアロボコール」による紹介
- ③ 株式会社 イニシア様「地域支援事業に4月から移行した市町村の現状 ―地域が起こす地域包括ケア」は4月から市町村総合支援事業を開始した品川区高齢者福祉課高桑春彦氏と滋賀県で地域包括医療・ケアを実践している花戸貴司氏（東近江市永源寺診療所所長）による講演が行われた。

ランチョンセミナーは5本6月13日、15日昼休みに5本開催した。

- ① カシオ計算機株式会社様の「地域資源を活用したこれからの介護『Ayamu 地域介護』」は現役ケアマネジャーが出演し地域資源を致したケアマネジメントに関して行った。
- ② 株式会社 シニアライフクリエイティブ様「宅配食にみる栄養改善と各種取り組みの考え方」は配食の試食もできるセミナーが行われた。
- ③ 株式会社 やさしい手様は「在宅医療と在宅介護と生活支援サービスの総合ケアマネジメントによる地域包括ケアの実現」をテーマに行った。
- ④ 株式会社 ヤマシタコーポレーション様「ご利用者の自立支援のためのケアマネジャーと福祉用具専門相談員との連携」をテーマに行った。
- ⑤ 学会主催「認知症と向き合う」では39才歳の時アルツハイマーと診断され、病名を公表し当事者グループを作られた丹野智文氏と日本認知症ワーキンググループ事務局水谷佳子氏をお招きし、服部大会長と鼎談方式での論議が行われた。会場出口で急遽の「応援カンパ」を集めたところ8万円余が集まった。（二人にカンパをお渡しした）



(39歳アルツハイマーの丹野さんとワーキンググループの水谷さんにカンパを渡した)

6月13日 13:45～ 2つのワークショップ開催

ワークショップ1:「ミッケルアート」橋口 論氏 静岡大学発ベンチャー企業 株式会社
スプレーアートイグジン、「ご高齢者が思い出を語りやすい社会づくり」を目指す2013年
日本認知症ケア学会石崎賞、2014年日本認知症予防学会浦上賞を受賞した。

ワークショップ2 14:45～「在宅ターミナルケアとケアマネジメント」

講師佐々木栄子氏(ガン専門看護師)より在宅の看取りに関するワークショップ



(写真はワークショップの様子)

6月13日16:00～イブニングセミナー「前例がなければわたしが作る」(共催日本
アビリテーズ協会) 青野浩美さんは同志社女子大で声楽を専攻していた時、原因不明の病
気にかかり、車いすの生活に。翌夏、無呼吸発作に見舞われた。気管切開し、人工呼吸器
を使い・スピーチカニューレでソプラノを歌うコンサート(ピアノは同期の友人が演奏)

最後の5分間、日本アビリテーズ協会の伊東弘泰理事長が「障害者差別解消法」の制定と意義についてお話された。



(写真は、車椅子で気管切開の場所に蓋をしてソプラノを歌う青野さん)
6月13日 17:30～懇親会は「踊りの輪」



(沖縄のケアマネジャー達による島唄で懇親会は盛り上がった)
沖縄のケアマネジャー4人による島唄と蛇味線、九州の「むつみ老人保健施設」のメンバーによる歌と踊りで皆が踊り出した。



(九州の老人保健施設のケアマネジャーの音頭で踊った)

前日の6月12日には認定ケアマネジャーの会の総会と全体研修会が開催された。認定ケアマネジャーが主任介護支援専門員の更新要件に入り、実務者の同行訪問研修が秋から始まるため、認定ケアマネジャーの人气が一挙に拡大した。

参考資料

1. 老年学会合計参加者数

7学会合計 8,684名

学会名	小計
第57回日本老年医学会学術集会	2,197名
第57回日本老年社会科学会大会	359名
第38回日本基礎老化学会大会	171名
第26回日本老年歯科医学会総会・学術大会	1,706名
第30回日本老年精神医学会大会	1,304名
第14回日本ケアマネジメント学会大会	1,169名
第20回日本老年看護学会学術集会	1,778名

協力者一覧

埼玉県介護支援専門員協会

岩男久二子

東京介護支援専門員研究協会の

相川しのぶ

高橋勉

千葉県介護支援専門員協会の

船津良

認定ケアマネジャーの会

小柳優子

西村敬代

畑みどり

左瀬知絵美

中山陽子

高木はるみ

富田洋介

村上美恵子

松岡一美

村田智恵

相田里香

金和江

遠藤千穂

姥谷典子

飯田淑江

松本則子

和田道浩

小池恵美子

内田真理

井岡幸子

鈴木ひとみ

立川真里子

酒井清子

大西一枝

神奈川県介護支援専門員協会

石田貴一

山崎正之

高橋優子

今田恭昭

大館一美

松村幸恵

渡會祥子

松原未来

金子加菜子

三田美佳

小林三三代

栗池利枝

中村純子

葛永由美子

吉本信子

物置美代子

吉田光江

新内枝津子

前田順司

坂本幸枝

半谷淑子

植木茂由

佐藤直人

洪正順

小池信由

井口恵

鈴木孝代

吉田裕子

小泉嘉伸

瀧崎知水子

小島哲彦

青地千晴

遠辺美智子

佐野かず江

稲生徳之

藤田直美

荒井一枝

安田潤子

小野塚ひろ子

新井仁子

小森谷陽子

三澤弥生

柿崎直美

北園伊津代

高砂陸人

ケアマネット 21

加賀美由旗

松本恵美

下田智子

末次雪代子

稲富武志

その他

鈴木優美

協力者一覧